

TOMODACHI イニシアチブによる災害看護研修を共催しました（2016/6/25）

テーマ：災害医療と災害看護
会場：災害科学国際研究所（仙台）

2016年6月25日（土）に仙台で開催された TOMODACHI イニシアチブによる災害看護研修の一部を災害科学国際研究所で開催し、江川新一が「災害医療と災害看護」のテーマで特別講義を行いました。

TOMODACHI イニシアチブは東日本大震災を契機に、米日カウンシルが日本の若者を次世代のリーダーとして育成するための一連のプログラムで、これまでに 4000 名を超える若者たちが米国を訪問したり、日本を訪問した米国の若者との交流をもったりしています。この災害看護研修は 2015 年度から始められたもので、少なくとも 3 年間継続される計画です。被災県である、岩手、宮城、福島 の 3 県で学ぶ看護学生たちが災害看護に関する抱負をもって応募し、12 名が採択されました。

今回は初顔合わせもかねて、自己紹介を兼ねたアイスブレーキングと、郷里の紹介を行うことで、プレゼンテーションに必要な技術を身に付けていきます。すべて日本語で進行しますが、米国の災害医療や危機管理対応を学ぶための国際的な考え方が求められます。昨年度の参加者が 3 名参加し、成果と一回りも二回りも成長した様子が伝えられました。

江川新一教授は、災害医療の用語や災害ごとに異なる保健医療のニーズ、災害リスクを減少させるにはハザードへの曝露や脆弱性を少なくし、対応能力を向上させることの重要性、わが国の災害医療体制と人々の健康を守るためのリーダーシップについて講演しました。災害対応で行われるクラスターアプローチとチーム医療はとてもよく似ています。自分の意見を言うだけでなく、相手を理解し、人々の健康を守ることを中心に考えて協働していくことが大変重要です。

参加者たちはセミナー後に南三陸町を訪れ、東京で再度研修を受けたのちに、8 月中旬に約 2 週間の米国訪問で災害看護について学びます。学んだことを消化し、キャリアパスを進めるための強いモチベーションとなることが期待されます。



講演する江川新一教授



参加者・企画メンバーと

文責：江川新一（災害医学研究部門）